

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

がん患者の家族・遺族に対する効果的な精神心理的支援に関するガイドライン作成

研究分担者 久保田 陽介 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学
藤森 麻衣子 国立がん研究センター・社会と健康研究センター健康支援研究部

研究協力者		竹内 恵美	国立がん研究センターがん 対策情報センターがん医療支援部
松岡 弘道	国立がん研究センター中央 病院精神腫瘍科	蓮尾 英明	関西医科大学病院
		宮本 せら紀	東京大学病院
明智 龍男	名古屋市立大学大学院医学 研究科精神・認知・行動医学	阪本 亮	近畿大学病院
大武 陽一	伊丹せいふう病院	大西 秀樹	埼玉医科大学国際医療センター
瀬藤 乃理子	福島県立医科大学	四宮 敏章	奈良県立医科大学附属病院
倉田 明子	広島大学病院	岡村 優子	国立がん研究センター・社会と健 康研究センター健康支援研究部
浅井 真理子	日本医科大学	篠崎 久美子	国立がん研究センター・社会と健 康研究センター健康支援研究部
加藤 雅志	国立がん研究センターがん 対策情報センターがん医療 支援部	坂口 幸弘	関西学院大学人間福祉学部人間科 学科

研究要旨

がん患者の家族・遺族に頻度の高い、抑うつ、複雑性悲嘆に対する精神心理的な支援法に関する診療ガイドラインを作成することを目的とする。そのため、Minds 診療ガイドラインの作成マニュアルにのっとり、現在システマティックレビューを実施中である。

A. 研究目的

がん患者の家族・遺族に頻度の高い、抑うつ、複雑性悲嘆に対する精神心理的な支援法に関する診療ガイドラインを作成することを目的とする。

B. 研究方法

ガイドライン作成グループは、責任者松岡弘道（委員長）の下、久保田陽介、藤森麻衣子に加え、明智龍男、大武陽一、瀬藤乃理子を副委員長として組織し、精神科医、心療内科医、心理士、看護師、ビリーブメントの研究者等多職種で構成した。その他、倉田明子、浅井真理子、加藤雅志、竹内恵美、蓮尾英明、宮本せら紀、阪本亮、大西秀樹、四宮敏章、岡村優子、篠崎久美子、坂口幸弘も委員として参画した。

Minds 診療ガイドラインの作成マニュアルにのっとり、ガイドラインを作成している。

C. 研究結果

スコープを作成し、重要臨床疑問をまとめ、診療アルゴリズムを作成するとともに、クリニカルクエスチョンとして、「がん等の身体疾患によって重要他者を失った（病因死）18歳以上の成人遺族が経験する精神心理的苦痛に対して、非薬物療法を

行うことは推奨されるか?」、「がん等の身体疾患によって重要他者を失った（病因死）18歳以上の成人遺族が経験する精神心理的苦痛に対して、向精神薬を投与することは推奨されるか?」の2つを設定した。現在、系統的レビューを実施しており、一次スクリーニングが終了した。

D. 考察

今後、がん患者の家族・遺族の抑うつ、複雑性悲嘆に対する精神心理的な支援法に関する診療ガイドラインが作成され、がん患者の家族・遺族の生活の質の向上が期待される。また、より一層症状緩和を推進するうえで必要な研究が明らかになる。

E. 結論

がん患者の家族・遺族の抑うつ、複雑性悲嘆に対する精神心理的な支援法に関する診療ガイドラインが作成され、がん患者の家族・遺族の生活の質の向上が期待される。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし